



学校紙ごみもったいないやんかプロジェクト

大阪市立の学校におけるごみ減量の取組み結果報告

(2006.2～2013.12の8年間)

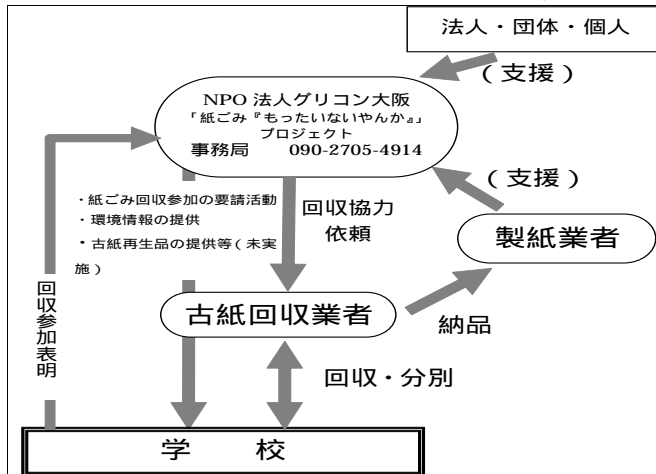
「紙ごみもったいないやんかプロジェクト」が始まった理由

2005年、当時大阪書籍株式会社の社員から、学校から出る紙類が燃やされているので、なんとか回収して再資源化したいとの訴えがありました。グリーンコンシューマー大阪ネットワークのコンセプトとして、働いている場での資源循環を一人の生活者の視点で考え実現できる手法を編み出していき、企業にも貢献できることを小さなことからでも実行していくことでした。

学校、事業者、NPOとの協働の仕組み

事業者とNPOとの協働から無償回収へ

収集資源の活用は、収集品が近隣で製品化できる生産工場があり、再生品として市場で流通できることを確認することからはじまりました。そして、古紙の収集ルートの確認です。大阪市内の公立の学校は幼稚園、小学校中学校、高等学校、特別支援校を入れて460校を超える学校数です。学校との信頼関係を築くために、古紙回収事業者が集まる関西製紙原料事業協同組合に事業者間調整をしていただき加盟6社が区割りをして、定期回収ができる下記の体制を組みました。



関西製紙原料事業協同組合

- 山上紙業株式会社 (松原市)
- 靖国紙料株式会社 (平野区)
- 共栄紙業株式会社 (尼崎市)
- 株式会社福井商店 (吹田市)
- 大淀産業株式会社 (八尾市)
- 株式会社谷商店 (東大阪市)



無償回収協定を毎年締結

特定非営利法人 **グリーンコンシューマー大阪ネットワーク**

教育委員会、学校との協働の始動 各校と覚書の締結

2006年に入り、大阪市、大阪市教育委員会への話し合いの結果、各校長会への説明を実施し、賛同を得た学校と覚書を締結し、取り組みを開始したのがその年の春からでした。大阪市環境局は、家庭における紙回収の方法として集団回収の奨励をしており、資源回収は、各地域の自主性にゆだねていました。従って、紙回収率は全国平均を大幅に下る状況が長年続いていました。

資源をみすみす焼却してしまうのは「もったいない」として、まず教育の場から、大阪市内の事業所にも波及していく第一歩として、歩みだしたのです

集積実績

年度	学校数	回収量(トン)
2006	119	110.9
2007	119	187.5
2008	97	153.9
2009	129	207.5
2010	114	229.8
2011	124	226.8
2012	136	288.6
2013.4-12月	113	214.7
全校(466校)の比率	25.6%	年平均175.6t

今後の課題

当初は、学校で回収した古紙を再生紙にして学校で再度活用できることを目指していたが、個別回収で循環して製品化できる流通ルートまで到達できなかった。

今後は、教育委員会、大阪市内での古紙を循環させる方針をだすこと。さらに、社会を良くする企業活動として、各学校区での事業系古紙などの共同回収に一步すすめるオリジナル再生品を市場にだすこと。当面はモデル地域の実証実験として、仕組みの構築の支援を「大阪ごみ減量推進会議」に依頼していく。将来を担う人たちへ、市民・行政・企業が一体になった実践型環境教育の一助になっていくことを目指していくこと。